

## 再開への軌跡 I

6月1日に本校も学校が再開され、1年次生が登校しました。翌日より2年次生、3年次生が登校してきました。この間、3月2日より約3ヶ月に渡って休校となっていました。5月7日に政府より、本県に対して緊急事態宣言が延長されました。しかし、校長は教職員に対して6月の再開に向けて、これからの3週間は再開準備期間と位置づけ、準備してきました。



誰もいない第1グラウンド

本校が最初に新型コロナウイルス感染防止のための対策を、具体的に行ったのは1月中旬でした。

本校には在県外国人特別募集で入学した生徒が在籍しています。生徒のなかには中国の春節に、中国を訪れる生徒がいました。また、家族や親族が来日するという生徒もいました。そこで感染症対策を取るプリントを生徒に配付しました。

2月21日、閣議後の萩生田文部科学大臣は記者会見で卒業式に関して「現時点では一律に中止を求めていますがいませんが、すでに感染が確認されている地域においては、自治体の衛生部局ともよく相談をしていただいて感染拡大防止の観点から実施方法の変更や延期などを含め、対応を検討いただきたいと思います。」という発言があり、翌22日、直ちに挙行するために卒業式の見直しを行い、卒業生とその保護者のみの出席、マスク着用、体育館の窓を開閉、アルコールの用意など、感染防止に向けた可能な範囲での対策をとって挙行することを計画しました。しかし残念ながら政府より全国への休校要請と、それを受けての教育委員会通知より、卒業生と教職員のみとなりました。この間、国内の感染者数は日ごとに増え、3月2日、政府は全国の学校に対して休校を要請しました。さらに、政府は4月7日、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、本県を含む東京都、大阪府など7都道府県に緊急事態宣言を発しました。



\*ソーシャルディスタンスを取った入学式

4月7日、横浜清陵高等学校の第4期生の入学式が行われました。緊急事態宣言のなか、初めての入学式であり、新入生も合格者説明会以来の登校であり、その後、1年次生は教科書販売と個別登校でしか登校する機会がなく、ほとんどの生徒が学校再開まで2～3回しか登校することはありませんでした。

1 年次生は合格者説明会でスタディサプリの説明を受け、入学式の日持参した自分の



\*課題を整える教員

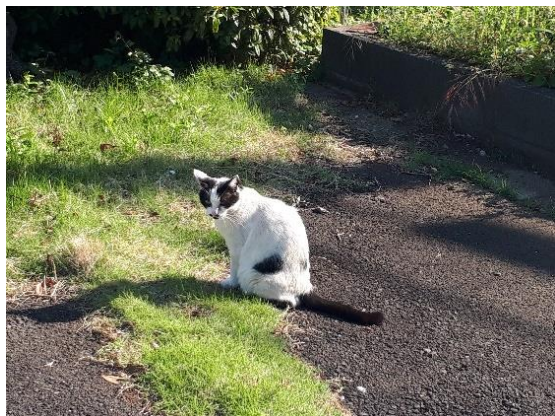
スマートフォンにアカウントを入れ、スマートサプリアが上級生と同じように使用できるようにしました。これにより本校の全生徒は家庭でスタディサプリアを用いて動画の授業を見ることが可能になりました。

政府からの休校要請を受けて全国の学校が休校になりました。生徒が不在のなか、課題の準備や提出方法の準備などをしたり、再開後の時間割や行事計画を立てたりしました。特に、大量の課題をどのように送るのかということが課題になりました。

2回課題を送付しましたが、最初は日本郵便株式会社のレターパックを用いることにしました。510円で重さ4キロまでの信書を送付することができます。その上、対面で届けられて受領印又は署名が必要なので、送付したものが届いたことの確認ができるので使用することにしました。

さらに先生方にも在宅勤務を命じ、職員間の業務連絡等も Classroom や Teams を用いたり、授業の動画配信をテストとしたり、学校再開後を見据えて準備をしてきました。また、新学期になって新たな課題を送付し、家庭学習である課題も評価の対象であること、さらに、学校再開明けに直ちに課題テストを実施予定であることも明示しました。

校内には生徒の人影がなくなり、今まで以上に動物が姿を現したり、痕跡を残したりし



ています。学校正門傍に住み着いている猫のマロン(写真)も、生徒の姿があまりにも見かけないので、寂しそうに佇んでいます。また、校舎の屋根裏等に住み着いている雀が校長室の窓から中を覗いていたり、リスが防球ネット上のワイヤー線を歩いたり、校内の多くの動植物が人影の少ないのを不思議がっています。そのようななか、雨後のグラウンドにアライグマや狸の足跡を見つけました。狸は極東に棲む日本

古来の生物ですが、アライグマは特定外来生物です。アメリカからペットとして持ち込まれた生物で、特に生態系や人間の生活に多大な影響を与える生物です。外来生物法に指定され、飼育や野外に離すことが禁止されています。アライグマはネコ科でアニメのラスカルなどのイメージがあり、一見可愛い姿ですが、性格は気性が荒く、非常に攻撃性が強いと言われています。ペットとして輸入されたので飼われた方はいますが、ほとんど人になつかないと言っています。また、アライグマは害獣扱いを受けています。アライグマは農作物を荒らしたり、病原菌や寄生虫で被害を与えたり、人は噛まれれば狂犬病で命を落とすこともあります。ですから、もし見かけても近づいてはいけません。気を付けてください。